

実務経験のある教員による授業科目一覧

学科名

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁
美容実習 (国際美容師学科)	櫻澤 哲文	美容師	
美容実習 (国際美容師学科)	倉賀野 正彦	美容師	
美容実習 (国際美容師学科)	海老原 恵利人	美容師	
理容実習 (理容師学科)	秋山 美絵	理容師	
理容実習 (理容師学科)	関根 孝明	理容師	
理容実習 (理容師学科)	伊藤 智佳子	理容師	
メイク実習 (国際ビューティ学科)	原崎 房代	メイクアーティスト	
ネイル実習 (国際ビューティ学科)	井出 由香里	ネイルアーティスト	
エステ実習 (国際ビューティ学科)	萩原 望	エステティシャン	

科目名	皮膚科学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原 望	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	人類すべて恒常性(ホメオスタシス)の影響によって、バランスを保っている。健康を維持し、生活バランスを保つために、環境衛生は大切な私たちの一部になっている。衛生の重要性、健康を保つ為のバランスなどの知識を習得していく。 接客の際、感染・細菌・病原体経路を学び、しっかりとした衛生管理に基づき、接客・指導できる人材になること。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「皮膚科学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	理容・美容保健		
成績評価の方法 ・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施する。即戦力として必要とされる知識なので、対面授業とオンライン授業の両方に対応できるように、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	皮膚の構造①	皮膚の表面・断面
第3回目～第4回目	皮膚の構造②	表皮の構造、働き
第5回目～第6回目	皮膚の構造③	真皮・皮下組織の構造、働き
第7回目～第8回目	皮膚付属器官の構造①	毛の構造・毛の成長
第9回目～第10回目	皮膚付属器官の構造②	汗腺・爪
第11回目～第12回目	皮膚の循環系と神経系①	皮膚の血管・リンパ管
第13回目～第14回目	皮膚の循環系と神経系②	皮膚の神経
第15回目～第16回目	皮膚と付属器官の生理機能①	体外保護作用(機械的外力、光線、化学的刺激、細菌)
第17回目～第18回目	皮膚と付属器官の生理機能②	体温調節作用(周囲の温度が高い・低い場合)
第19回目～第20回目	皮膚と付属器官の生理機能③	知覚作用と皮膚反射・分泌排泄作用
第21回目～第22回目	皮膚と付属器官の生理機能④	呼吸作用・吸収作用
第23回目～第24回目	皮膚と付属器官の生理機能⑤	ビタミンD形成作用・表情作用・再生作用
第25回目～第26回目	皮膚と付属器官の保健①	皮膚と精神、嗜好品、体内病変
第27回目～第28回目	皮膚と付属器官の保健②	皮膚の水分と脂の状態
第29回目～第30回目	皮膚と付属器官の疾患③	皮膚疾患(尋常性座瘡)

科目名	人体化学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	萩原 望	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	人類すべて恒常性(ホメオスタシス)の影響によって、バランスを保っている。健康を維持し、生活バランスを保つために、環境衛生は大切な私たちの一部になっている。衛生の重要性、健康を保つ為のバランスなどの知識を習得していく。接客の際、感染・細菌・病原体経路を学び、しっかりとした衛生管理に基づき、接客・指導できる人材になること。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「生理学」「解剖学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	理容・美容保健		
成績評価の方法 ・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施する。即戦力として必要とされる知識なので、対面授業とオンライン授業の両方に対応できるように、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	美容保健	人体各部の名称 頭部・顔部・頸部の体表解剖学
第2回目	骨格器系①	骨の種類と構造 骨の連結
第3回目	骨格器系②	骨格器系とそのはたらき 骨の保健
第4回目	筋系①	筋の種類とその特徴 主な骨格筋とそのはたらき
第5回目	筋系②	顔面筋と表情運動 筋系の保健
第6回目	神経系①	神経系の成り立ち 中枢神経とそのはたらき
第7回目	神経系②	末梢神経とそのはたらき 神経系の保健
第8回目	感覚器系①	視覚 聴覚 平衡感覚
第9回目	感覚器系②	味覚 嗅覚 皮膚感覚 深部感覚と内臓感覚
第10回目	血液・循環器系①	血液循環の仕組み 循環経路 心臓と血管のはたらき
第11回目	血液・循環器系②	リンパ管系の仕組みとはたらき 循環器系の保健
第12回目	呼吸器系①	呼吸器系のあらまし 気道 肺の仕組みとガス交換
第13回目	呼吸器系②	呼吸運動 呼吸器系の保健
第14回目	消化器系①	消化器系のあらまし 消化管の仕組み 消化管のはたらき
第15回目	消化器系②	消化腺とそのはたらき 消化と物質代謝 消化器系の保健

科目名	栄養学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後・2前
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	<p>栄養学は、合理的に食物から適正な栄養素を適正量取るという実践的な学問である。 接客の際、日々の食生活から、美肌やボディラインづくりに影響を及ぼすというアドバイスが出来るような知識を身につけていく。 様々な食生活アドバイスの出来る、カウンセラーやエステティシャン、美容アドバイザーとして即実践に役立つ知識を身に付ける。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	「栄養学」の必要な知識を身に付け、カウンセリング時に専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TBM オリジナルデータ、chromebook		
成績評価の方法 ・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、学んだ知識から日々の生活に役立て、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	健康の基準 栄養と栄養素	健康とは何か、栄養とは何か 栄養と栄養素の違い
第3回目～第4回目	糖質①	糖質の特色・分類・種類
第5回目～第6回目	糖質②	炭水化物・食物繊維
第7回目～第8回目	脂質①	脂質の特色・種類
第9回目～第10回目	脂質②	中性脂肪・コレステロール
第11回目～第12回目	タンパク質①	タンパク質の特色・過剰と欠乏
第13回目～第14回目	タンパク質②	アミノ酸
第15回目～第16回目	3大栄養素まとめ	糖質・脂質・タンパク質の詳細
第17回目～第18回目	ビタミン	ビタミンの特色と種類
第19回目～第20回目	ビタミンの分類	水溶性ビタミン・脂溶性ビタミン
第21回目～第22回目	脂溶性ビタミン	脂溶性ビタミンの詳細
第23回目～第24回目	水溶性ビタミン①	水溶性ビタミンの詳細
第25回目～第26回目	水溶性ビタミン②	水溶性ビタミンの詳細
第27回目～第28回目	ミネラル	ミネラルの特色と種類
第29回目～第30回目	ミネラル詳細	過剰症、欠乏症、特色

科目名	社会常識マナー	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	丸山 直美	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	社会人として必要な基本的マナーを習得するためにサロンでの見だしなみ・言葉遣い・談話電話対応の仕方・接客・カウンセリングなど、実務に即した内容を、実際にロールプレイングして教科書を基に学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	サービス接客検定3級・2級、社会人常識マナー検定2級・3級、経済記事読み方検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	サービス接客検定テキスト、社会人常識検定テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	サービススタッフの資質	必要とされる要件、従業要件
第2回目	専門知識	サービス知識、従業知識
第3回目	一般知識	社会常識
第4回目	対人技能	人間関係、接客知識、話し方、服装
第5回目	実務技能	問題処理、環境整備、金品管理、社交業務
第6回目	社会常識①	社会と知識
第7回目	社会常識②	仕事と成果
第8回目	社会常識③	一般知識、ビジネス計算
第9回目	コミュニケーション①	ビジネスコミュニケーション
第10回目	コミュニケーション②	社会人にふさわしい言葉遣い
第11回目	コミュニケーション③	ビジネス文書の活用
第12回目	ビジネスマナー①	職場のマナー
第13回目	ビジネスマナー②	来客応対
第14回目	ビジネスマナー③	電話応対
第15回目	ビジネスマナー④	交際業務、文書類の受け取り

科目名	カウンセリング	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	接客業務において、カウンセリングの知識が技術以上に重要視されています。 お客様の心を理解し、また信頼関係に基づいた「人間関係」を築けるようなカウンセラーを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	美容カウンセリングの必要な知識を身に付け、専門的なアドバイスが出来るようにする		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	カウンセリングのあり方	カウンセリングとは、カウンセリングの方法
第3回目 ～ 第4回目	カウンセリングの定義	美容とカウンセリング
第5回目 ～ 第6回目	カウンセリングの種類	美容カウンセリング、心理カウンセリング
第7回目 ～ 第8回目	カウンセリングのレベル	カウンセリングのプロセス
第9回目 ～ 第10回目	カウンセリングの技法①	かかわり行動
第11回目 ～ 第12回目	カウンセリングの技法②	質問技法・応答技法
第13回目 ～ 第14回目	カウンセリングの技法③	ロールプレイング
第15回目 ～ 第16回目	カウンセリングの理論①	自己理論
第17回目 ～ 第18回目	カウンセリングの理論②	交流分析
第19回目 ～ 第20回目	カウンセリングの理論③	構造分析
第21回目 ～ 第22回目	カウンセリングの理論④	やりとり分析
第23回目 ～ 第24回目	自己理解と対人関係①	エゴグラム
第25回目 ～ 第26回目	自己理解と対人関係②	自己評価、アサーショントレーニング
第27回目 ～ 第28回目	心の健康①	ストレスとストレッサー
第29回目 ～ 第30回目	心の健康②	マズローの欲求、私達の生活とカウンセリング

科目名	美容マネジメント	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	川端 康浩	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	美容マネジメントは、サロンの営業活動を記録、計算、整理する技術であり、サロンの経営成績、財政状態を明らかに報告するものである。講義内容は、サロンを前提としたお金の流れを基に仕訳、勘定記入を通じて一巡の流れを学習する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本実務能力検定協会 美容会計検定試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容会計検定試験用テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎基本編①	需要・供給と価格、景気と為替、円高と円安
第2回目	基礎基本編②	金融機関の種類、国籍、求人と求職、デリバティブ
第3回目	ポイント編①	経済の勘を養う十訓、5つの活用法ステップ、目的・特性・要素
第4回目	ポイント編②	49の景気指標
第5回目	実践活用編①	新聞記事の基本構造、決算記事独特の表現、日経夕刊
第6回目	実践活用編②	キーワード、
第7回目	検定対策	検定試験の合格へ向けた問題演習
第8回目	美容会計の基本、貸借対照表の役割	美容会計の目的、損益計算書の役割
第9回目	簿記一巡の流れⅠ①②	仕訳の基礎、転記・計算表・総勘定元帳
第10回目	簿記一巡の流れⅡ①②	試算表の作成、決算の手続き・精算表の作成
第11回目	現金・預金の処理、その他の債権債務	分記法、債権債務
第12回目	固定資産、収益と費用	固定資産と減価償却、収益と費用
第13回目	資本、決算	個人企業の資本、決算整理とは
第14回目	会計、特徴	伝票会計、サロン経営上の特徴
第15回目	検定対策	検定試験の合格へ向けた問題演習

科目名	英会話	学科名	国際美容師学科
分類	必修	配当年次・学期	1後
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	ラディア・ウンバス	実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	英会話は情報の伝達手段として、インターネットでも幅広く使われ、多くの場面で国際的なコミュニケーションが必要になってきています。美容業に携わる人の活躍する場所も日本ばかりではなく海外へとステージが広がり、また、ヘアサロンを訪れる外国人も増え、幅広く対応できる英語スキルの習得が求められるようになりました。日常会話から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得します。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	お客様との日常会話の仕方から美容業に関わる接客のコミュニケーションのとり方までを習得が目標。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ビューティサロン英会話 English Conversation at the Beauty Salon		
成績評価の方法 ・基準	① 日常の受講態度 ② 期末テスト		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	Welcome to Our Beauty Salon	サロン(受付)でのあいさつの仕方・曜日・時計の読み方・予約の取り方
第2回目	Client Consultation	カウンセリング(ヘアスタイル・カラー・トリートメントなどの確認)
第3回目	Menu Introduction	メニューの紹介・説明
第4回目	Receiving Calls a Salon	サロンでの電話対応・受付の仕方
第5回目	Shampooing	シャンプー中のお客様との会話
第6回目	Getting a Haircut	ヘアカット カットの種類
第7回目	Color My Hair	ヘアカラー カラー選び
第8回目	Perming	パーマ パーマの種類
第9回目	Treatment	ヘアケアアドバイス(トリートメントなど)
第10回目	Finishing Your Hair Style	仕上げ・ヘアスタイリング剤について
第11回目	Payment Numbers	会計での会話・数字の読み方
第12回目	Giving Directions	道のご案内
第13回目	How to e-mail	Eメールの書き方
第14回目	Job Interview	面接 ポイントアドバイス
第15回目	Review	復習・期末テストの準備

科目名	化粧品学	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	皮膚の構造・肌のしくみを知ることで、あらゆる肌悩みに対し、最適な化粧品を選び出せるプロフェッショナルな人材を育成する。化粧品の成分を読み解き、特徴を理解することで化粧品のすばらしさをより一層、実感できるようにする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本化粧品検定3級・2級・1級		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本化粧品検定対策テキスト		
成績評価の方法 ・基準	平常点・出席率等及び総合評価テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、主体的に学習してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	まちがえがちな美容知識	クレンジング・洗顔の基本、基礎化粧品の知識
第3回目 ～ 第4回目	皮膚・肌について知ろう①	皮膚の成り立ちを断面図で確認・皮膚のしくみと構造
第5回目 ～ 第6回目	皮膚・肌について知ろう②	表皮の構造と働き、名称
第7回目 ～ 第8回目	皮膚・肌について知ろう③	真皮・皮下組織の構造と働き、名称
第9回目 ～ 第10回目	皮膚・肌について知ろう④	皮膚の付属器官の働き・皮膚の機能
第11回目 ～ 第12回目	皮膚・肌について知ろう⑤	皮膚の機能
第13回目 ～ 第14回目	肌の手入れと正しい知識①	肌タイプと見分け方・敏感肌
第15回目 ～ 第16回目	肌の手入れと正しい知識②	肌悩みの原因とお手入れ(乾燥・尋常性ざ瘡)
第17回目 ～ 第18回目	肌の手入れと正しい知識③	肌悩みの原因とお手入れ(尋常性ざ瘡)
第19回目 ～ 第20回目	肌の手入れと正しい知識④	肌悩みの原因とお手入れ(毛穴・シミ)
第21回目 ～ 第22回目	肌の手入れと正しい知識⑤	肌悩みの原因とお手入れ(シミ・くすみ・くま)
第23回目 ～ 第24回目	肌の手入れと正しい知識⑥	肌悩みの原因とお手入れ(しわ・たるみ)
第25回目 ～ 第26回目	肌の手入れと正しい知識⑦	メイクアップの基本テクニック
第27回目 ～ 第28回目	美肌・美ボディ①	肌を劣化させるさまざまな要因
第29回目 ～ 第30回目	美肌・美ボディ②	紫外線が与える影響・マッサージの必要性と方法・生活習慣

科目名	PC	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	顧客管理、文書作成、金銭管理など、パソコンを使う事が一般的となる現代社会。 Word操作から文章作成。Excelから顧客、金銭管理や資料作成。Power Pointからプレゼンテーション能力を学ぶ。 職場での即戦力として経験値を高める為、最も普及しているMicrosoftを修得することを目的とする。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	Word・Excelの基本操作ができ、文章作成・顧客管理ができること。 ITリテラシーを向上させ、インターネットマナーを身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TBM オリジナルデータ 、 chromebook		
成績評価の方法 ・基準	出席率状況、授業姿勢及びデータ提出を考慮し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、Microsoft office アプリの動作の修得を目標に積極的に学習してほしい。 また、ITリテラシーを高めてほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	chromebook基本動作	初期設定/データ管理/インターネットの危険性
第2回目	ブラウザ操作	基本動作/Google・office各種操作・登録
第3回目	Word①	基本操作/文字の入力
第4回目	Word②	文章の作成と表作成
第5回目	Word③	画像を使用した文章
第6回目	Excel①	データ入力/ワークシート編集
第7回目	Excel②	関数の利用と罫線
第8回目	Excel③	条件付き書式
第9回目	Excel④	検索と置き換え
第10回目	Excel⑤	表計算
第11回目	Power Point①	基本操作/プレゼンテーション作成
第12回目	Power Point②	アニメーション効果/図形利用
第13回目	Power Point③	作成/まとめ
第14回目	ムービー・スライドショー作成①	基本操作/各種データの挿入と配列
第15回目	ムービー・スライドショー作成②	アニメーション効果/視覚効果

科目名	メイク	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある教員科目	○:該当 ○
科目概要	<p>メイクアップは自己表現の一つであるが、周囲の人に好印象を持ってもらうための身だしなみやマナーの一環でもある。</p> <p>メイクの基礎から応用までを学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。</p> <p>メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。</p> <p>確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	<p>TBMディプロマ</p> <p>JMA日本メイクアップ技術検定 1～3級 JMA日本メイクアップ知識検定試験(ベーシック・アドバンス)</p> <p>INFA国際メイキャップ試験</p>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	<p>美容技術理論2</p> <p>JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト</p> <p>TBMオリジナルテキスト</p>		
成績評価の方法 ・基準	<p>実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。</p> <p>成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。</p>		
履修に当たって の留意点	<p>授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウイッグ・セルフメイク・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して行ってほしい。</p>		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	メイクアップ概論 スキンケアの手順	道具の種類と使い方 セッティングの仕方 添え手と声掛け フィンガーワーク、ポイントクレンジング
第9回目～第16回目	スキンケアの手順 ベースメイクの手順	クレンジング 化粧水 乳液 ベースメイクの手順 質感 フェイスブロッキング
第17回目～第24回目	ベースメイクの手順 チーク・ハイライト・ローライト	ベース・コントロールカラー・ファンデーション・コンシーラー フェイスパウダー・チーク・ハイライト・ローライト
第25回目～第32回目	顔の形態的な観察 修正メイク	顔型の分析 皮膚の生理学・構造 メイクアップと色彩 顔型の修正 メイクアップの基礎テクニック
第33回目～第40回目	ポイントメイク ポイントメイク	アイシャドウ アイブロウ アイライン マスカラ リップ
第41回目～第48回目	フルメイク 修正メイクテクニック	JMA3級・2級技術の仕上げ 眉の修正 目の修正 唇の修正
第49回目～第56回目	シーン別メイク パーティメイク	ナチュラルメイク 就活メイク パーティメイク 成人式メイク
第57回目～第64回目	パーソナルメイク メイクアップの応用・強弱	線と形の錯覚 個性の分析 プロポーション バランス メイクアップの強弱と印象
第65回目～第72回目	アイメイクのバリエーション リップ・チークのバリエーション	グラデーション(縦・横・立体) ストレート アウトカーブ インカーブ
第73回目～第80回目	イメージメイク キュートメイク	イメージメイク理論とテクニック イメージのポイントを理解し、方向性を決める
第81回目～第88回目	クールメイク エレガントメイク	イメージのポイントを理解し、方向性を決める イメージのポイントを理解し、方向性を決める
第89回目～第96回目	フレッシュメイク メイクカウンセリング	イメージのポイントを理解し、方向性を決める メイクプランニング アドバイス
第97回目～第104回目	ブライダルメイク(洋装) ブライダルメイク(和装)	挙式タイプ お色直し ヘアメイクチェンジ 和婚タイプ 新和装タイプ
第105回目～第112回目	フォトメイク 年代別メイク	フォトメイクのテクニック カラーの発色や質感 時代背景 メイク変遷
第113回目～第120回目	ディプロマ試験対策① ディプロマ試験対策②	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習① 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習②

科目名	エステ	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	阿久澤 舞衣	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	<p>気配りを持って人の心に満足感や快感を与えることで、体のバランスを整え内面からと外見の美しさを表現する。この科目は、基礎用語、正しい知識と理論の習得と実習を組み合わせ、的確なカウンセリングと接客マナー及び技術を学ぶ。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並びに技術の習得は、エステウィッグ・相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	エステ概論・接客とマナー	エステの目的・効果、接客とマナー、道具の名前、事前準備の仕方
第9回目～第16回目	フェイシャルの手順・クレンジング	フェイシャルコース手順、フェイシャル座学、セッティングの仕方
第17回目～第24回目	クレンジング・デコルテ	ポイントメイク落とし、全体クレンジング、拭き取り(コットン・HOTタオル)、デコルテマッサージ
第25回目～第32回目	デコルテ・ハンドマッサージ	ポイントメイク落とし・クレンジング・デコルテマッサージ 拭き取りまでの流れ、ハンドマッサージ
第33回目～第40回目	フェイシャルマッサージ	ポイントメイク落とし・クレンジング・フェイシャルマッサージ
第41回目～第48回目	ボディの手順・セッティング仕方	ボディコース手順、ボディ座学、セッティングの仕方
第49回目～第56回目	フットマッサージ	フットマッサージ
第57回目～第60回目	フェイシャルコース(パック)	ポイントメイク落とし・クレンジング・フェイシャルマッサージ 拭き取り・パックまでの流れ
第61回目～第68回目	ボディマッサージ	背中・フット・お尻・お腹マッサージ
第69回目～第80回目	機器の使用	フットバス～フットマッサージ、脱毛機器、各部分別のボディマッサージ
第81回目～第88回目	ボディマッサージ(応用)	ご案内～応用フット・背中・お尻・お腹・ハンドマッサージ フィトセラピー
第89回目～第96回目	カウンセリング	カウンセリングの仕方、肌の悩みに応じたフェイシャルコース
第97回目～第104回目	フェイシャル・デコルテ(応用)	ポイントメイク落とし～応用デコルテ・フェイスマッサージ
第105回目～第112回目	フェイシャル・パック(応用)	ポイントメイク落とし～応用フェイスマッサージ・パック
第113回目～第120回目	ディプロマ試験対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	ネイル	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	240時間	単位数	8単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	井出 由香里	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	ネイルアーティストとして必要な知識・技術を基礎から段階的に学び、ベーシックなサロンワークに対応出来る技術からプロのネイルアーティストとして必要な特殊技術を習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ INFA国際ネイル試験 JNECネイリスト技能検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルプリント		
成績評価の方法 ・基準	技術、作品提出を総合的に判断し評価する。 試験の成績はもとより、出席状況、授業姿勢、美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、ネイル講義並びに技術の習得は、ネイルチップ・セルフネイル・相モデル・プラクティスハンドでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第8回目	ネイル技術理論 ケアカラー	爪の基礎知識・爪の構造 ネイルケア・ポリッシュカラーリング
第9回目～第16回目	フラットアート 作品制作	アクリル絵の具を使用したペイントアート デザインネイル作成(ペイントアート)
第17回目～第24回目	ジェルネイル基礎 クリア・1カラー	ジェルネイル基礎知識と扱い方法・プレパレーション クリア・1カラー
第25回目～第32回目	ジェルアート①	グラデーション・フレンチ・ピーコック
第33回目～第40回目	ジェルアート②	マーブル・タイダイ・ジェルを使用したアート
第41回目～第48回目	作品制作 チップラップ	デザインネイル作成(ジェルアート) ハーフチップ、シルクを使用するの補強、補修技術
第49回目～第56回目	ジェルスカルプチュア	プレパレーション・フォームの付け方 スカルプジェルを使用した長さ出し技術
第57回目～第64回目	アクリルネイル基礎 エンボスアート	アクリルネイル基礎知識と扱い方法 カラーパウダーを使用したエンボスアート
第65回目～第72回目	作品制作 カウンセリング	デザインネイル制作(エンボスアート) 施術を避けるべき症状、行ってはいけない症状
第73回目～第80回目	アクリルスカルプチュア基礎 アクリルスカルプ	アクリルパウダーを使用した長さ出し技術 グラデーション・フレンチ
第81回目～第88回目	3Dアート 作品制作	立体アート(ジェル・アクリル) ネイルコンテスト作品制作
第89回目～第96回目	ネイルマシン デザインスカルプチュア①	ネイルマシン基礎知識と扱い方法 エンボス埋め込み・マーブル・クラッシュガラス
第97回目～第104回目	特殊ネイル デザインスカルプチュア②	特殊ネイル制作 ウェービング・バーチャルフレンチ
第105回目～第112回目	3Dアート パラフィンバック	立体アート(ドーム) パラフィンバック基礎知識・扱い方法
第113回目～第120回目	作品制作 ディプロマ対策	ディプロマのテーマに合わせた課題制作

科目名	ヘアー	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	実践的なヘアーセットを行う為、様々な髪を把握し、基本となるテクニックを学習する。 また、想像力を養い、感性を育成する。 ブライダル、ファッション界、舞台、一般分野に至るまで活躍できる人材を育成する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	TBM オリジナルデータ、chromebook		
成績評価の方法 ・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、技術の習得は、モデルウィッグでの練習または相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、積極的に技術を習得して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	概要 一束	用具説明/使用方法 ブロッキング/ブラッシング/結び方
第5回目～第8回目	編み込み ヘアスタイル作成①	表編み込み/裏編み込み/各種編み込み 編み込みを使用したヘアスタイル①
第9回目～第12回目	夜会巻き	夜会巻き作成手順説明 夜会巻き作成
第13回目～第16回目	各種アイロン ホットカーラー	ストレートアイロン/カールアイロン ホットカーラー
第17回目～第20回目	日本髪	日本髪作成手順説明 日本髪作成
第21回目～第24回目	ヘアスタイル作成②・③	編み込みを使用したヘアスタイル②・③
第25回目～第28回目	ヘアスタイル作成④・⑤	逆毛を主とするヘアスタイル①・②
第29回目～第32回目	復習	復習を兼ねた作品作り
第33回目～第36回目	作品作り①	イメージに合わせたヘアスタイル作成(キュート・クール)
第37回目～第40回目	作品作り②	イメージに合わせたヘアスタイル作成(フレッシュ・エレガント)
第41回目～第44回目	作品作り③	ディプロマ試験対策用ヘアスタイル作成
第45回目～第48回目	相モデル実習①・②	ブライダルヘアスタイル作成①
第49回目～第52回目	相モデル実習③・④	ブライダルヘアスタイル作成②
第53回目～第56回目	ディプロマ試験対策①	各ペアでディプロマ試験のテーマに合わせた技術練習①
第57回目～第60回目	ディプロマ試験対策②	各ペアでディプロマ試験のテーマに合わせた技術練習②

科目名	ブライダル	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	原崎 房代	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々な分野を学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。 授業は、用語解説、検定対策問題を解きながら同時に、ブライダルコーディネーターの基礎的な事柄を習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	BIA公益社団法人 日本ブライダル文化振興会ブライダルコーディネーター技能検定3級 BIA認定 ASS(アソシエイトブライダルコーディネーター)検定 AWP アシスタント・ウェディングプランナー検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	BIA公益社団法人日本ブライダル文化振興会ブライダルコーディネーターテキスト(スタンダード) AWPアシスタント・ウェディングプランナーテキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが、テーマによってはグループ学習やオンライン授業等を取り入れていくので、主体的に学習し、また資格取得に向けて努力して欲しい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	結婚とは	結婚の定義 日本の結婚式(歴史と文化) 欧米の結婚式(歴史と文化)
第3回目～第4回目	ブライダルビジネス	ブライダル市場 ブライダル業種 ブライダルの関連業種 ブライダルのエリア特性 ブライダル業界の1年と集客システム
第5回目～第6回目	ブライダルの基礎①	見合いと婚約 結納・婚約式 ブライダル準備 キリスト教式 神前式
第7回目～第8回目	ブライダルの基礎②	仏前式 人前式 シビル・マリッジ 披露宴 海外ウェディングと新婚旅行 二次会
第9回目～第10回目	コーディネーター業務①	新規業務 ブライダルセールスの特徴 ホスピタリティ営業 プランニング
第11回目～第12回目	コーディネーター業務②	プレゼンテーションの手法 新規アフターフォロー 成約業務 ペーパーワーク
第13回目～第14回目	打合せ業務	成約時から初回打合わせまで 最終打合わせ～当日まで
第15回目～第16回目	衣裳選定	花嫁のドレス 洋装と小物 花嫁の和装 和装小物
第17回目～第18回目	ブーケ フラワーアイテム	ブーケの由来と歴史 ブーケの代表的なデザイン フラワーアイテム 会場装花 両親への花束
第19回目～第20回目	ブライズビューティ	ヘアスタイル メイクイメージ ネイルアート ブライダルエステ
第21回目～第22回目	コーディネーター	会場コーディネーター デーブルコーディネーター ペーパーアイテム ウェルカムアイテム
第23回目～第24回目	料理・飲物	フランス料理 日本料理 折衷料理 イタリア料理 中華料理 ドリンク ウェディングケーキ
第25回目～第26回目	披露宴の演出	司会 音楽 照明 映像 演出プラン 引出物 引菓子 記録・記念アイテム
第27回目～第28回目	手配業務	ペーパーアイテム手配 ビューティ手配 挙式・披露宴演出手配
第29回目～第30回目	当日業務	当日のコーディネーターの役割 挙式・披露宴進行表 テーブルセッティング 当日のサービス業務

科目名	ヨガ	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡本 聡子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	心と身体のバランスを整えるヨガの知識を身につける。 身体の不調や疾患を学び、機能改善へのアプローチおよび指導法を実践を通じて習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本統合医学協会認定ヨガインストラクター資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本統合医学協会発行テキスト		
成績評価の方法 ・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施する。主体的に学習し、資格取得に向けても努力してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目 ～ 第2回目	ヨガ概論	ヨガについての基本知識を学習
第3回目 ～ 第4回目	プログラミング	ヨガのアーサナの基本的な組み合わせを実践
第5回目 ～ 第6回目	呼吸法・呼吸器	ヨガの呼吸法、呼吸器系に対する機能改善へのアプローチを習得する
第7回目 ～ 第8回目	脊柱・腰部	脊柱の構造、腰部にアプローチするポーズを習得する
第9回目 ～ 第10回目	骨盤・股関節	骨盤・股関節の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第11回目 ～ 第12回目	肩部・上肢	肩部・上肢の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第13回目 ～ 第14回目	頸部・背部	頸部・背部の構造や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第15回目 ～ 第16回目	神経系	神経の構造や不調・疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第17回目 ～ 第18回目	生殖器	生殖器の構造と働き、不調や疾患を機能改善へのアプローチを習得する
第19回目 ～ 第20回目	消化器・免疫	消化器官の構造や働き、免疫機能などの疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第21回目 ～ 第22回目	循環器・感覚器・内分泌	循環器・感覚器・ホルモンに関わる不調や疾患を学び、機能改善へのアプローチを習得する
第23回目 ～ 第24回目	太陽礼拝	複数のポーズからなる太陽礼拝を習得する
第25回目 ～ 第26回目	体幹	体幹を鍛えるアーサナを習得する
第27回目 ～ 第28回目	試験対策	認定試験に向けた対策授業
第29回目 ～ 第30回目	試験	認定試験の実施

科目名	コース別(メイク)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	<p>メイクアップは自己表現の一つであるが、周囲の人に好印象を持ってもらうための身だしなみやマナーの一環でもある。</p> <p>メイクの基礎から応用までを学び、正しい知識や技術を多面的に学習する。</p> <p>メイクを段階的に学習しながら、プロのメイクアップアーティストになる為の、最新の美容に重点をおく。</p> <p>確かなメイクアップテクニックをしっかりと身につけ、場面に応じた柔軟な対応が出来るようにする。</p>		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	<p>TBMディプロマ</p> <p>JMA日本メイクアップ技術検定 1級 JMA日本メイクアップ知識検定試験(アドバンス)</p> <p>INFA国際メイキャップ試験</p>		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	<p>美容技術理論2</p> <p>JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト</p> <p>TBMオリジナルデータ、chromebook</p>		
成績評価の方法 ・基準	<p>出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。</p>		
履修に当たって の留意点	<p>授業は、一斉授業を基本に実施し、メイク講義並びに技術の習得は、メイクウイッグ・セルフメイク・相モデルでの 施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得してほしい。</p>		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	ブライダルメイク①	挙式タイプ ヘアメイクチェンジ
第5回目～第8回目	ブライダルメイク②	イメージ別お色直し
第9回目～第12回目	ディプロマ対策①	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第13回目～第16回目	エアブラシ①	機器の扱い方法と基本動作
第17回目～第20回目	エアブラシ②	作品制作
第21回目～第24回目	特殊メイク 舞台メイク	ハロウィンメイク 宝塚風メイク ディズニープリンセス風メイク 劇団四季風メイク
第25回目～第28回目	フォトメイク	フォトメイクのテクニック カラーの発色や質感
第29回目～第32回目	ブライダルメイク③	ブライダルヘアメイク お色直し
第33回目～第36回目	ディプロマ対策②	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第37回目～第40回目	年代別メイク①	時代背景 メイク変遷 I
第41回目～第44回目	年代別メイク②	時代背景 メイク変遷 II
第45回目～第48回目	デザインメイク①	テーマを決めてフェイスアート I
第49回目～第52回目	デザインメイク②	テーマを決めてフェイスアート II
第53回目～第56回目	ディプロマ対策③	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第57回目～第60回目	ディプロマ対策④	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(エステ)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	阿久澤 舞衣	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	気配りを持って人の心に満足感や快感を与えることで、体のバランスを整え内面からと外見の美しさを表現する。この科目は、基礎用語、正しい知識と理論の習得と実習を組み合わせ、的確なカウンセリングと接客マナー及び技術を学ぶ。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、エステ講義並びに技術の習得は、エステウィッグ・相モデルでの施術を行う。 練習を重ね、積極的に技術を習得してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	肌別フェイシャル①	ホワイティングフェイシャル(マッサージ・パック),イオン導入
第5回目～第8回目	リラクゼーションマッサージ	リラクゼーションボディマッサージ
第9回目～第12回目	ブライダルエステ①	肌別フェイシャル(マッサージ・パック),高周波
第13回目～第16回目	ブライダルエステ②	リンパマッサージ(フット・背中)
第17回目～第20回目	ブライダルエステ③	リンパマッサージ(腕・デコルテ)
第21回目～第24回目	肌別フェイシャル②	エイジングフェイシャル(マッサージ・パック)
第25回目～第28回目	肌別フェイシャル③	小顔フェイシャル(マッサージ・パック),超音波
第29回目～第32回目	痩身マッサージ	振動法・打法・強擦法・軽擦法・揉捻法
第33回目～第36回目	肌別フェイシャル④	フェイシャル(マッサージ・パック),ヘッドマッサージ
第37回目～第40回目	肌別フェイシャル⑤	カウンセリング後トリートメントフェイシャル(マッサージ・パック)
第41回目～第44回目	ブライダルエステ④	全身リンパマッサージ
第45回目～第48回目	ブライダルエステ⑤	フットバス,脱毛
第49回目～第52回目	ブライダルエステ⑥	全身リンパマッサージ,ディプロマ技術練習
第53回目～第56回目	ディプロマ対策①	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第57回目～第60回目	ディプロマ対策②	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(ネイル)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	岩見 優香	実務経験のある 教員科目	○:該当 ○
科目概要	デザインスカルプチュアや3Dアートを中心に、感性・想像力を養いオリジナル性の高い作品を作り出せるアーティストを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ JNECネイリスト技能検定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ネイリスト技能検定対策バイブル オリジナルプリント		
成績評価の方法 ・基準	技術、作品提出を総合的に判断し評価する。 試験の成績はもとより、出席状況、授業姿勢、美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、ネイル講義並びに技術の習得は、ネイルチップ・セルフネイル・相モデルでの 施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	ジェルアート① ジェルアート②	基本のジェルデザイン 特殊ジェルデザイン
第5回目～第8回目	ジェルアート③ マシーンエアブラシ	ジェルデザイン応用 ネイルマシンの使い方・エアブラシの使い方
第9回目～第12回目	リペア・フィルイン フットネイル	リペア・フィルイン フットネイルの手順・アート・マッサージ
第13回目～第16回目	検定対策①	検定対策
第17回目～第20回目	検定対策②	検定対策・模擬試験
第21回目～第24回目	実戦練習	カウンセリング・接客方法 接客から施術までの実践練習
第25回目～第28回目	ブライダルネイル①	ウェディングドレスをイメージしたアクリルスカルプデザイン①
第29回目～第32回目	ブライダルネイル②	ウェディングドレスをイメージしたアクリルスカルプデザイン②
第33回目～第36回目	ブライダルネイル③	ウェディング和装衣装をイメージしたアクリルスカルプデザイン
第37回目～第40回目	3Dアート	3D基礎 特殊3Dアート①
第41回目～第44回目	3Dアート アクリルスカルプチュア①	特殊3Dアート② アクリルスカルプ基礎
第45回目～第48回目	アクリルスカルプチュア② デザインスカルプ①	アクリルスカルプ応用 デザインスカルプ
第49回目～第52回目	デザインスカルプ② デザインスカルプ③	特殊なデザインスカルプ① 特殊なデザインスカルプ②
第53回目～第56回目	ブライダルネイル④ ディプロマ対策	作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第57回目～第60回目	ブライダルネイル⑤ ディプロマ対策	作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	コース別(インナービューティ)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	岡本 聡子	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	リハビリに基づいてつくられたピラティスの知識を身につける。 インナーマッスルを鍛え、メリハリのある身体をつくり、姿勢の改善、怪我の予防にも期待のできるエクササイズを学ぶ。 ピラティスによる機能改善へのアプローチと効果的な指導法を実践を通じて習得する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	日本統合医学協会認定ピラティスインストラクター資格		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本統合医学協会発行テキスト		
成績評価の方法 ・基準	実技試験、授業姿勢などを中心に、総合的に判断し評価する。 成績はもとより、出席状況、挨拶、また技術と美的感覚も参考にする。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施するが主体的に学習し、また資格取得に向けて努力してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	ピラティス概論	ピラティスについての基本知識を学習
第5回目～第8回目	骨格と姿勢	人体の骨格や筋肉について学習する
第9回目～第12回目	入門	ピラティスの呼吸法、基本について学ぶ
第13回目～第16回目	体幹	体幹に関わるエクササイズを習得する
第17回目～第20回目	体幹	体幹に関わるエクササイズを習得する
第21回目～第24回目	腰部	腰部に関わるエクササイズを習得する
第25回目～第28回目	股関節	股関節に関わるエクササイズを習得する
第29回目～第32回目	頸部・背部	頸部・背部に関わるエクササイズを習得する
第33回目～第36回目	肩部	肩部に関わるエクササイズを習得する
第37回目～第40回目	上肢・下肢	上肢・下肢に関わるエクササイズを習得する
第41回目～第44回目	生殖器・感覚器・呼吸器	生殖器・感覚器・呼吸器の機能改善アプローチを習得する
第45回目～第48回目	循環器・消化器	循環器・消化器の機能改善アプローチを習得する
第49回目～第52回目	神経・免疫・内分泌	神経・免疫・内分泌の機能改善アプローチを習得する
第53回目～第56回目	試験対策	認定試験に向けた対策授業
第57回目～第60回目	試験	認定試験の実施

科目名	コース別(ブライダル)	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	2通
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	○:該当
担当教員	八木 彬/關 孝子/岩見 優香	実務経験のある 教員科目	○:該当
科目概要	ブライダルプロデュースに関わる役割や結婚式を創り上げるための様々な分野を学習することにより、ブライダルシーンを創造する能力を身に付ける。 授業は、ブライダルエステ・メイク・ネイルをトータルで学び、実践で役立つ技術を幅広く習得する。 ブライダルへの興味を深くし、業界のニーズに応えられるプロを目指す。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	TBMディプロマ JMA日本メイクアップ技術検定 1～3級 INFA国際エステ・メイキャップ・ネイル試験		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	美容技術理論2 JMA日本メイクアップ技術検定協会テキスト TBMオリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	出席率、受講態度及び定期試験、提出物等を、総合的に判断し評価する。		
履修に当たって の留意点	授業は、一斉授業を基本に実施し、技術の習得は、ウィッグ・セルフ・相モデルでの施術を行う。練習を重ね、積極的に技術を習得してほしい。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	ブライダルメイク①	挙式タイプ ヘアメイクチェンジ
第5回目～第8回目	ブライダルメイク②	イメージ別お色直し
第9回目～第12回目	ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第13回目～第16回目	ブライダルエステ①	肌別フェイシャル(マッサージ・パック),高周波
第17回目～第20回目	ブライダルエステ②	リンパマッサージ(フット・背中)
第21回目～第24回目	ブライダルエステ③	リンパマッサージ(腕・デコルテ)
第25回目～第28回目	ブライダルネイル①	ウェディングドレスをイメージしたアクリルスカルプデザイン①
第29回目～第32回目	ブライダルネイル②	ウェディングドレスをイメージしたアクリルスカルプデザイン②
第33回目～第36回目	ブライダルネイル③	ウェディング和装衣装をイメージしたアクリルスカルプデザイン
第37回目～第40回目	ブライダルメイク③	ブライダルヘアメイク お色直し
第41回目～第44回目	ブライダルメイク④ ディプロマ対策	各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第45回目～第48回目	ブライダルエステ④	全身リンパマッサージ
第49回目～第52回目	ブライダルエステ⑤	フットバス,脱毛
第53回目～第56回目	ブライダルネイル④ ディプロマ対策	作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習
第57回目～第60回目	ブライダルネイル⑤ ディプロマ対策	作品作り 各ペアでディプロマのテーマに合わせた技術練習

科目名	職業実践	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1後・2前
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当 ○
担当教員		実務経験のある教員科目	○:該当
科目概要	最先端の美容技術について、インストラクターの経験をもとに具体的・実践的にわかりやすく教授してもらい、今後の各種勉強と関連性を意識し、サロン就業のモチベーションをアップさせる。実践を重視した授業と、現場を数多く経験した方々の直接指導で、美容業界の現場で即戦力として使える熟練した技術を修得し、活用することにより、各自の技術に自信を持つことを期待する。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	オリジナルテキスト		
成績評価の方法 ・基準	① 挨拶 ② 選択実習の履修時間 ③ 日常の受講態度 ④ レポート提出		
履修に当たって の留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	メイクアップアーティストの仕事①	マナー・挨拶 メイク技術Ⅰ
第2回目	エステティシヤンの仕事①	マナー・挨拶 フェイシャル技術Ⅰ
第3回目	ネイリストの仕事①	接客 ネイルケア デザインネイルⅠ
第4回目	ブライダルの仕事①	接客技術 ブライダルヘアⅠ
第5回目	メイクアップアーティストの仕事②	マナー・挨拶 メイク技術Ⅱ
第6回目	エステティシヤンの仕事②	マナー・挨拶 フェイシャル技術Ⅱ
第7回目	ネイリストの仕事②	接客 デザインネイルⅡ
第8回目	ブライダルの仕事②	接客技術 ブライダルヘアⅡ
第9回目	メイクアップアーティストの仕事③	マナー・挨拶 メイク技術Ⅲ
第10回目	エステティシヤンの仕事③	マナー・挨拶 フェイシャル技術Ⅲ
第11回目	ネイリストの仕事③	接客 デザインネイルⅢ
第12回目	ブライダルの仕事③	接客技術 ブライダルヘアⅢ
第13回目	メイクアップアーティストの仕事④	マナー・挨拶 メイク技術Ⅳ
第14回目	エステティシヤンの仕事④	マナー・挨拶 フェイシャル技術Ⅳ
第15回目	ネイリストの仕事④	接客 デザインネイルⅣ

科目名	行事	学科名	国際ビューティ学科
分類	必修	配当年次・学期	1通・2通
授業時数	/		
授業方法	実習・講義	企業等との連携	○:該当
担当教員	/		○:該当
科目概要	各種イベント・式典・ボランティア参加や研修旅行等を通して見聞を広め、職業人としての自覚とマナー・接客技術等を学び、職場での即戦力としての経験値を高める。		
到達目標 (目標検定・資格を含む)	特になし		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法 ・基準	出席率		
履修に当たって の留意点	特になし		

授業計画	テーマ	内容
就職決起大会		就職への決意表明
就職講演会①②		社会から求められるものを学ぶ
サロンガイダンス		県内・県外からサロンの方から説明を聞く
オリエンテーション		コミュニケーション能力を高める
国内研修旅行		美容知識を学ぶ
スポーツ大会		カラダを動かし身体能力を高める
就職マナー研修		就職への心構えを学ぶ
性犯罪防止セミナー		性犯罪の怖さを学ぶ
フィールドワーク		美容の知識や最新技術を学ぶ
コンサート		芸術的感性を磨く
成人の祝い		日本の伝統を学ぶ
海外研修		見聞を広め自主性を伸ばす
CSCP活動		個人と組織の問題解決能力を学ぶ
薬物乱用防止セミナー		薬物の怖さを学ぶ
美容研修		最新の技術と接客マナーを学ぶ